

押收兵器

輕迫撃砲
 ビンカーズ七糧半野戰高射砲
 七生五過山砲
 ソ聯四五耗對戰車砲
 戰車
 探照燈(射光器)

— — — — —

木
↑
補

一名稱
 一會場
 一主催
 一會期
 一貸與期間
 一責任者

大政翼贊興亞國防大博覽會
 秋田縣續手町前郷横手國民學校校庭
 横手町出羽日報社
 自八月十八日 至九月十八日
 自八月五日 至九月二十三日
 出羽日報社長 佐々木一郎

保存期限

三年

決裁指定

局長委任

決行指定

號二二三

政務次官 回付 拾決裁前連帶
參與官 後課名

受領番號 壹第三三五二號

件名 陸軍省後援名義使用方ノ件

起元廳(課)名

酒田國防大博覽會

決行(決裁)後
回覽課名

大臣

委

政務次官

次官

主務局長

參與官

高級副官

主務課長

書記官

主務副官
官房御用掛

主務課員

審案
筆記者

番號

報審第一二三號

受領

昭和六年六月二十八日

提出

昭和六年七月拾八日

受領

昭和六年七月廿八日

大臣官房

昭和六年七月廿三日

連帶

局長

局長

課長

課長

決行後
回覽(裁決)

陸軍

陸普

副官ヨリ酒田振興會々長大川周三（弘前師團經由）

へ通牒

四月十日附出願ニ係ル首題ノ件許可セラレタルニ付承知相成度

陸普第五四七四號

昭和拾六七月拾九日

陸普

副官ヨリ憲兵司令部本部長弘前憲兵隊長（憲司經由）

へ通牒

左記博覽會ニ對シ陸軍省後援名義使用方許可セラレタルニ付依命

通牒ス

左記

一名稱 興亞國防大博覽會

一會期 自七月二十五日至八月二十八日

陸軍

一會場 酒田市

一主催 酒田振興會

陸普第五四七四號

昭和拾六年七月拾九日



三三三二

酒振發第 號

昭和拾六年四月十日

陸軍省 參謀部經由 第六月二十一日



山形縣 酒田市 酒田商工會議所內 昭和十六年六月二十三日



陸軍大臣 東 條 英 機 殿

陸軍省後援名儀使用方ノ件申請

首題ノ件當管内ニ於テ左記ニ依リ興亞國防大博覽會開催ニ付後援名儀使用方御許可相成度此段及御願候也

記

主 催 酒田振興會

會 長 酒田振興會々長 大 川 周 三

會 期 昭和拾六年五月一日ヨリ五月三十日 (三十日間)



七月二十日 八月二十日

(終)

酒振發第 / 號

昭和拾六年四月十日

參謀部經由 第 二 二 號
五月二十一日

山形縣 形庶第一七四
昭和十六年六月二十五日



山形縣酒田市酒田商工會議所內

興亞國防大博覽會々長

酒田振興會々長 大川 周



陸軍大臣 東 條 英 機 殿

陸軍省後援名儀使用方ノ件申請

首題ノ件當管内ニ於テ左記ニ依リ興亞國防大博覽會開催ニ付後援名儀使用方御許可相成度此段及御願候也

記

主 催 酒田振興會

酒田振興會々長 大川 周 三

會 期 昭和拾六年五月十日ヨリ五月三十日 (三十日間)



七月二十五日 八月十八日

(終)

功 謹 明 願

本會主催下本年七月三日午後八時

二十一日迄酒田市日知山公園ニ於テ開催

スル酒田興亜園博覧會

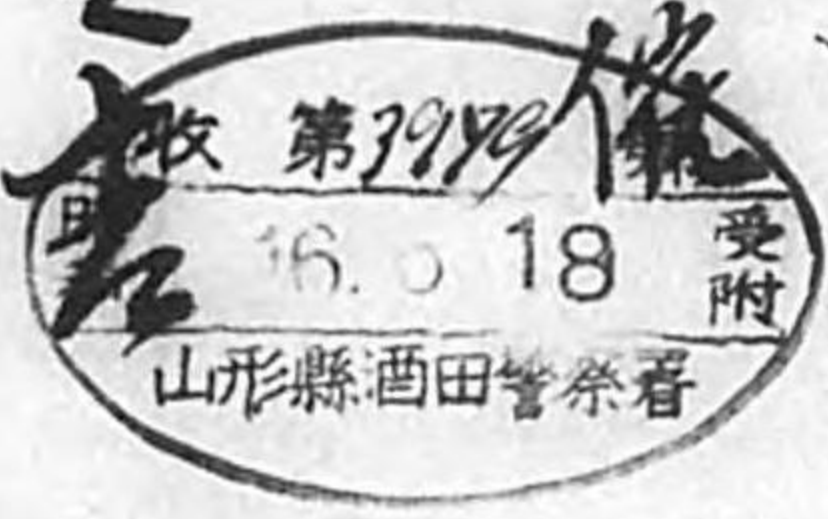
名譽会長 酒田市長 森藤巳之吉

名譽副会長 酒田市長 中村 弘

酒田商會 荒尾米幸吉

諸氏各就任候事相違無之ニ付

功謹明相成友共致及功願也



昭和十六年六月十日

酒田振興會長 大川岡



酒田警察署署長

警視 五十年 榮 殿

右相違 下可證明又

昭和十六年六月十八日

酒田警察署署長



收第三五〇號之謄本

酒田興亞國防博覽會會長

大川 周三

昭和十六年五月十七日附之函件屆出係酒田
興亞國防博覽會開催ニ關スル件
場及遊觀場取締規則案十一條ニ依リ之
ヲ認可ス

但之老記事項特ニ遵守スルコト

記

一 開催期間ハ昭和十六年七月二十五日ヨリ八月二十日

送クルコト

二建物ヲ建設セリトシル場合ハ制規ノ手續ヲ為スベキ
ハ勿論建物ノ終床面積百平方米ヲ超スル場合
木材統制規則第三條第一項各號ニ掲グ
ル事項ヲ其具シタル届書ヲ本縣知事宛
ニ提出スルコト

昭和十六年六月十六日

酒田警察署署長



右之際本正本相違無之候也

酒田縣立國語博覧會會長

大川 岡三



酒田興亞國防大博覽會

一、名稱 酒田興亞國防大博覽會

二、目的 興亞聖戰ノ真意ト高度國防國家ノ重大性ヲ一般民衆ニ認識セシメ郷土部隊始メ皇軍ノ武勳ヲ顯彰シテ銃後ノ士氣ヲ鼓舞シ資源ノ重要性ヲ強調スルト共ニ戰時生産ノ擴充ニ努メ以テ肇國精神ヲ昂揚シ忠君愛國ノ決意ヲ愈々強化セントスルヲ目的トス

三、主催 酒田振興會

四、後援依頼先 陸軍省、海軍省、弘前師團、山形聯隊、舞鶴鎮守府、拓務省、遞信省、鐵道省、獨逸大使館、伊太利大使館、報知新聞本社、酒田市、酒田商工會、議會、帝國在郷軍人會酒田及各地分會、酒田市銃後奉公會、愛國婦人會各地分會、國防婦人會各地支部、酒田市及各地學事會、各地青年團、山形新聞社、鶴岡新報社、酒田日日新聞社、莊內觀光協會、酒田觀光協會、

五、開催地 酒田市有、日和山公園地

六、開催時期 自昭和十六年七月二十五日
至全 八月二十八日

七、開催計劃ノ概要

會場面積 三千三百坪

會場建設ノ規模

陸軍館 陸軍省貸下ノ現代兵器、戰利品、參考資料等

附 被服館 陸軍省被服廠貸下ノ軍服ヲ主トシタル我國被服ノ歴史的展列及世界各國ノ軍服展列

海軍館 兵器、軍艦模型、戰利品、參考資料

獨伊樞軸館 獨伊兩大使館貸下ノ世界狀勢參考資料

防諜防空館 當局貸下品及防空ニ關スル實際訓練ノ指導資料

附 防空壕 本格的永久使用ニ堪ユル防空壕ノ建設

慰靈館 郷土戰歿勇士ノ祭壇ヲ設ケ、眞影遺品等ヲ陳列

聖戰武勳館 皇軍、海、陸勇戰ノバノラマ及ジオラマ等ヲ配シテ聖戰ノ武勳ヲ顯彰スル二百坪ニ亘ル大展覽

資源増産館 郷土ノ主タル産業ノ農業生産ノ充實ヲ目的トスル指導資料ヲ基本トシ之ニ陸軍省糧秣協會貸下ノ糧秣増産資料

中庭廣場 西住戰車ヲ始メ、爆撃飛行器、探照燈、高射砲等館内陳列不能ノ大型兵器、及体育用具等ヲ陳列資供

其他 時局ニ適應セル館ノ建設ヲ考慮中

特設館トシテハ「演藝館」「海人館」「不思議館」「子供の國」等決定

八、其ノ他參考トナルベキ事項

(一) 開會當日ハ神式、佛式ニヨリテ郷土部隊ノ戰歿勇士並ニ軍用馬ノ大慰靈祭ヲ舉行シテソノ遺族ヲ招待ス

(二) 本館ノ防空壕ハ永久酒田市ニ寄附ス

(三) 木材ソノ他建築材料ハ既往ニ使用セルモノヲ以テ之ニ充ツ

(四) 經營上過剰金ヲ生ジタル場合ハ時局ニ適應セル献金又ハ寄贈品ヲナス

(五) 經理上不足金ヲ生ジタル場合ハ自治行政機關ニ關係ナキヲ以テ關係者ノミニ於テ之ヲ處理ス

酒田商工會議所内

酒田興亞國防大博覽會事務局

電話 二四三

趣意書

支那事變勃發以來既に五星霜、皇風萬里、御稜威の下敵なく光輝ある成果は古今その比を見ず、雖も、一身を皇國に奉じ苦難の中に忠勇を競ふ全將士の崇高なる精神と尊き犠牲者の身に想を到すの時、誰か嚴肅なる感慨に打たれざるものあらんや

而して皇國日本は今や新東亞建設の聖業の下にあり然も世界の情勢を觀するに人類史上空前の一大轉換に向て驚進の一途を辿りつゝあるを想へば、聖戰の前途猶遠遠にして遽に矛を收むるの期を斷じ難し、即ち皇國は舉げて、内高度國防國家建設の新體制を整へ、外獨伊その他の盟邦と結び眞に大東亞新秩序の盟主たる確固不動の信念と實力とを必要とするの急務今より大なるはなし

茲に於て乎本會は一般大衆をして忠靈に感謝の誠を捧ぐるに共に叙上の光輝ある民族的責務と決意とを痛感せしむるの一助たらしむる目的を以て、來る七月廿五日より八月廿八日迄三十五日間酒田市日和山公園地をトし興亞國防大博覽會を開催せんことす

由來、酒田市を中心とせる庄内及最上、由利の兩郡、人口五十萬の地區には軍事機關の存置なく、國防知育の見聞甚だ惠まれざるの憾なしとせず。加ふるに、この豊穰の別天地は又娛樂設備に乏しく動もすれば時局認識を欠ける興行物の殷賑を極むる等農村を主とせる勤勞者の慰安を求むるの必然性とは云へ時局下窻に寒心に堪えざるものあり。依つて今回の行事たるや勤勞慰安の中、不知不識の内に、國民の向ふ處を認識せしむる正に一石二鳥の企劃たるを信ずるものなり。即ち本會が特に増産必須の農繁期を避け、百萬石の美田に青風薫るの候を選んで會期とせるの意も亦實に此處に存するなり

惟ふに酒田市は今春隣接の地區を合併し、港灣の完整軍需工場の誘致、輸出品の振興、進んで日滿鮮直航ルートの開設等に勇邁しつつある躍進都市たり。加ふるに酒田の地たる風光明媚を以て鳴るは天下周知の事に屬し新に語を贅するの要なからんも、特に會場は夏季に於てその眞價を極度に發揚し、綠松の蔭、暑き日を海に入るの眺望をほし、いとにする日和山公園たるに於てをや。仰ぎ希くは計劃内容は記して別紙にあり大方の諸彦この微意を諒とせられ深厚の御協賛を垂れ御高援の榮を賜はらんことを

昭和十六年四月

酒田興亞國防大博覽會長

酒田振興會長 大川 周三

酒田興亞國防博覽會役員名簿

酒田興亞國防博覽會

總裁 知事 山内 繼喜 (交渉中)

名譽總裁 海軍中將 佐藤 鐵太郎 (交渉中)

會長 酒田振興會會長 大川 周三

名譽會長 酒田市長 齋藤 巳之吉

副會長 酒田市長會議所議員 高山 菊次郎

振興會副會長 博報社主 小野 貞吉

名譽副會長 酒田市長會議所議員 中村 弘

酒田商工會議所會頭 荒木 幸吉

名譽顧問 滿鐵顧問 大川 周明

全 前酒田市長 中里 重吉

全 帝國人絹社長 久村 清太

全 報知新聞社 總務局長 池田 正之輔

全 貴族院議員 太田 政弘

全 本間 光正

理事 酒田市長會議所議員

酒田商工會議所議員

評議員 庄内二市三郡及最上、由利郡一部

各町村長及國民學校長

酒田市長及町內會長

三三

軍事

知

3976 3976 3976

知 16.7.2 由

七月廿二日

事務

經理局

財團法人尾張武揚社決算並予算二關スル御届
本會昭和拾五年度決算書及全拾六年度予算書別紙添付此段御届仕り候
昭和拾六年四月貳拾 日

三五九

拾年信

和長

第一課長 局員

第二課長 局員

陸軍大臣 東條英機 殿
海軍大臣 及川古志郎 殿

尾張武揚社

尾張武揚社
長 松井石根

七月拾日

事務局 16.7.17

陸軍省 16.7.7

杉江

陸軍省 16.7.9

陸軍省 16.7.-8 20 軍事課

本件回覧ス
海軍省 中

陸軍省

理事會並ニ評議員會議事録

一日 時

二場 所

昭和十六年四月十八日午後五時二十分
名古屋市東區東新町七番地万平ホテル

三出席者

氏名末尾記載

四議事狀況

社長松井石根議長席ニ着キ午後五時二十分理事會並ニ評議員會ヲ併合開催スルコトヲ宜ス

本日ノ出席者ハ理事十五名評議員三十七名ノ内四十六名ナルヲ以テ寄附行爲第二十五條ニ依リ決議有効タルコトヲ報告シタル後本年度内ニ於ケル事業ノ概要ヲ本社ハ大塚常務理事支社ハ野田常務理事ヨリ別記ノ如ク報告セシメ議事ニ入ル

議長ハ昭和十五年度收支計算書並ニ昭和十六年度豫算案ヲ一括上程シ村瀨主事ヲシテ其内容ニ就キ詳細ニ亘リ説明セシメタル後是ヲ議場ニ諮リタルニ異議ナク滿場一致原案ノ議決ヲ得續テ剩餘金處分案ヲ諮リタルニ是又原案通り可決確定

依之議長ハ本日ノ議案ハ全部成立シタル旨ヲ述べ午後六時十分閉會ヲ宜ス
 昭和十六年四月十八日

財團法人 尾張武揚社

理事會及評議員會議長

松井石根



司 出 席 理 事

大塚世之助



評 議 員

村瀬重麿



一、出 席 者 尾張武揚社理事會
 一、出 席 者 名古屋市東區東海通南土番屋式平水電
 一、出 席 者 昭和十六年四月十八日午後五時二十分

理事會並ニ評議員會議長



出席者氏名

理事 (出席者)

大塚堅之助 大隈榮一

森越太郎

野田久吉

大村有隣

(委任状提出者)

伊藤治郎左衛門 青木謙太郎

坂井徳太郎

荻洲立兵

相馬半治

桑原允長 大野寛

評議員 (出席者)

青山寛 水野泰治

近藤清

津田次郎

幸田銈太郎

宅間重太郎 深田源六

高松定一

濱村傳兵衛

村瀬空磨

熊谷千代丸 宮地太郎

(委任状提出者)

山田虎夫 水谷千萬吉

石黒大介

牛田國五郎

伊藤常七

廣瀬友吉 高橋彦二郎

林柳三郎

早川鯉三郎

本田善平

吉崎隆 松井七夫

深見新之助

舟橋茂

後藤新馬太

佐藤恒丸 木村材

水野桂三

宮崎富雄

鈴木正金

和田由恭

今并金一

以上合計四十六名

山田...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

田部 幸江

二二二〇... 三六〇... 四一〇... 四六〇... 五一〇... 五六〇... 六一〇... 六六〇... 七一〇... 七二〇... 七三〇... 七四〇... 七五〇... 七六〇... 七七〇... 七八〇... 七九〇... 八〇〇... 八一〇... 八二〇... 八三〇... 八四〇... 八五〇... 八六〇... 八七〇... 八八〇... 八九〇... 九〇〇... 九一〇... 九二〇... 九三〇... 九四〇... 九五〇... 九六〇... 九七〇... 九八〇... 九九〇... 一〇〇〇

本館（大塚清海事務所）

一 第一號議案 昭和十五年度收支計算書ノ承認ヲ求ムル件満場一致承認

二 第二號議案 昭和十五年度剩餘金處分案議決ノ件満場一致可決確定

三 第三號議案 昭和十六年度豫算案議決ノ件満場一致可決確定

一 五月十八日ト本年三月六日ノ二回會同議決ノ件

一 六月二十四日ト本年四月八日會同議決ノ件

一 七月九日ト本年五月二十二日會同議決ノ件

一 八月十六日ト本年六月九日會同議決ノ件

一 九月十三日ト本年七月十六日會同議決ノ件

一 十月十一日ト本年八月十三日會同議決ノ件

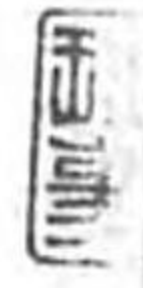
一 十一月八日ト本年九月十日會同議決ノ件

一 十二月六日ト本年十月八日會同議決ノ件

一 一月四日ト本年十一月六日會同議決ノ件

一 二月二日ト本年十二月四日會同議決ノ件

以上



事業ノ概要

本社（大塚常務理事）

- 一、陸海軍將校生徒志願者ニ對スル豫習教育ヲ四月五日ヨリ十一月二十四日迄施行シ陸軍諸學校ヘハ約六十名海軍諸學校ヘハ十名ヲ入校セシメ入校ニ先立チテハ夫レ夫レ壯行會ヲ催シ其ノ前途ヲ祝福セリ
- 一、五月十八日ト本年三月六日ノ二回賛助員會ヲ開催シ岩松中將及若松少將ノ時局講演ヲ拜聽セリ
- 一、六月二十四日ニハ故春田閣下ノ墓前祭ヲ市内中區下堀川町聖運寺ノ墓前ニ於テ執行シ尙同日揚輝莊ニ社員總會ヲ開催セリ
- 一、八月十六日ト本年一月二日ノ二回武學生トノ懇談會ヲ蓮中寺ニ於テ開催シ其ノ進歩向上ヲ促スト共ニ社員トノ親和ヲ圖リタリ
- 一、本年三月四日ニハ中學校長トノ懇談會ヲ又三月十五日ニハ配屬將校併ニ教練教師トノ懇談會ヲ開催シ學校トノ連絡ヲ密ニシ誘掖推奨ノ具體的打合ヲ行ヒ本年度ノ計畫ニ付キ親シク意見ノ交換ヲ行ヒタリ

以上大體本社ニ於ケル事業ノ大要ニシテ創設以來賛助員各位併ニ社員一同ノ熱

烈ナル御協力ニ依リ事業ノ逐日發展シツ、アルハ誠ニ欣幸トスル所ナリ
支社（日本常務理事）

一、徳川總裁ヨリ基本金トシテ十萬圓ノ寄附ヲ得タルヲ以テ是ヲ契機トシテ大ニ
基本金募集ニ努力セントス

一、豫習教育ニ就テハ東京ハ別ニ各機關カ市内ニ存立セラレ自由ニ補習ノ途ヲ講
シ得ヘリ從テ本社ノ如ク希望者ノ少ナキハ止ムヲ得サル次第ナリ乍然陸大へ
ハ三人ノ入校者ヲ得タリ

一、賛助員ニ付テハ熊谷評議員ノ幹旋努力ニ依リ十七名三十數口ノ募集ヲ得タル
ハ誠ニ喜ハシキ次第ナリ

一、支社ニ於テハ毎月一回賛助員併ニ社員ノ集會ヲ實施シ名士ノ講演等ヲ拜聽ス
ルコトトシタルカ來會者モ逐次増加シ非常ニ好結果ヲ收メツ、アリ

一、三月下旬陸軍豫科士官學校ノ入學ノ節ハ本社ヨリノ依頼モアリ入校生及附添
人ノ宿舍ヲ引受ケ相當ノ努力ヲ拂ヒタリ

以上ハ本年度内ニ於ケル事業ノ概要ナルカ此間各關係者ノ努力ニ依リ逐次事業
ノ進展ヲ見ツ、アルハ實ニ慶賀ニ堪ヘサル所ナリ

財團法人尾張武揚社

昭和十五年度 (自昭和十五年四月一日至昭和十六年三月卅一日) 歳入歳出決算書



科目	歳入		歳出		計
	本部	社	本部	社	
資産					
果實					
收入	一八六	七八	九四五	九三	一、一三二
利子					
貸家料	一八六	七八	六四五	九三	八三二
寄附金	一七、八三〇	〇〇	三〇〇	〇〇	三〇〇
基本財産指定寄附	一〇、〇〇〇	〇〇	八、八三八	五四	二六、六六八
無指定寄附	七、七〇〇	〇〇	一〇〇	〇〇	一〇、一〇〇
社員入社金	一三〇	〇〇	七、二八五	二五	一四、九八五
雑収入	四五〇	〇〇	一、四五三	二九	一、五八三
宿泊料			三六六	八〇	八一六
其他	四五〇	〇〇	三四〇	一五	八一六
前年度繰越金	九、一六二	四五	二六	六五	四七六
計	二七、六二九	二二	二、〇二三	〇〇	一一、一七五
合計					三九、七九三
					五〇

歲出之部

科目 本 社 支 社 計

事務所費 五、九八五 九八 二、三八八 〇八 八、三七四 〇六

會議費 三七三 一二 九六 四六 四六九 五八

給與費 一、〇三二 六四 八七八 七五 一、九一一 三九

旅費 八五 七四 一〇〇 〇〇 一八五 七四

需用費 四六一 五七 一、二四二 二九 一、七〇三 八六

弔慰金 五〇 〇〇 七〇 五八 一二〇 五八

什器購入費 三、七六三 三〇 〇〇 〇〇 三、七六三 三〇

雜費 二一九 六一 〇〇 〇〇 二一九 六一

集會所費 六三四 六〇 一、七一五 八〇 二、三五〇 四〇

誘掖推獎費 四六二 〇一 三九二 一一 八五四 一二

學資補助費 二、三一〇 二七 四一四 二〇 二、七二四 四七

志願者養成費 五〇 〇〇 一二五 〇〇 一七五 〇〇

臨時費 七九八 九三 五五〇 〇〇 一、三四八 九三

豫備費 〇〇 〇〇 一〇〇 〇〇 一〇〇 〇〇

基本財產繰入金 七、三八七 四四 六、四七九 〇八 一三、八六六 五二

剩餘金 二七、六二九 二三 二二、一六四 二七 三九、七九三 五〇

合計 二七、六二九 二三 二二、一六四 二七 三九、七九三 五〇

新報

正印

昭和拾五年度

自昭和拾五年四月一日
至全 拾六年三月卅一日

剩餘金處分案

當年度歲入金 參萬九千七百九拾參圓五拾錢

全 歲出金 貳萬五千九百貳拾六圓九拾八錢

差引

當年度剩餘金 壹萬參千八百六拾六圓五拾貳錢

之ヲ處分スルコト左ノ如シ

昭和拾六年度ニ繰越金壹萬參千八百六拾六圓五拾貳錢

以

上

昭和十六年度 自昭和十六年四月一日
 至昭和十七年三月卅一日 壹仟年

前南
 理達
 王國

前年度繰越金計	雜		寄附		資		科 目	歲入之入部	歲入	歲出	豫算	社	支	社	合	計
	其 他	宿 泊 料	入 社 金	無 指 定	基本財產指定	附 金										
三二七八九〇〇	七三九〇〇	二〇〇	一〇〇	二〇〇	三〇〇	三二〇	本		三三五〇			社	一〇〇			
〇〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	社		〇〇			社	七〇〇			
二一〇七三〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇	六〇〇	二〇〇	二〇七	支		三〇〇			社	五〇〇			
〇〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	社		〇〇			社	〇〇			
五三八六二〇〇	九三九〇〇	一〇〇	二〇〇	二六八〇〇	五〇〇	五二七	合		一〇三五〇			計	一〇三五〇			
〇〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	計		〇〇			計	〇〇			

號四三第

保存期限 三年
 決裁指定
 局長任

政務次官
 參與官
 回
 決裁前連帶
 後課名
 交通

受領番號
 壹第三三五九號
 件名
 陸軍省撰定歌名義使用ノ件

起元廳(課)名
 大日本軍用鳩協會

決行(決裁)後
 回覽課名

大臣

委

委

政務次官	次官	主務局長
參與官	高級副官	主務課長
書記官	主務副官	主務課員
審案	官房御用掛	審記者

主務局長
 受領番號
 昭和三十九年七月十九日
 提出
 昭和三十九年七月十九日
 大官受領
 昭和三十九年七月十九日
 了結
 昭和三十九年七月十九日

大官受領
 昭和三十九年七月十九日
 了結
 昭和三十九年七月十九日

連帶
 局長
 決行(決裁)後
 回覽

局長
 課長

課長
 局長

陸軍

陸普

副官ヨリ大日本軍用鳩協會々長公爵鷹司信輔へ通牒

六月十二日附當省大臣宛願出ニ係ル首題ノ件許可セラレタルニ付
承知相成度

陸普第五五一六號 昭和拾六年七月廿壹日

陸普

副官ヨリ憲兵司令部本部長、東京憲兵隊長（憲司經由）

へ通牒

大日本軍用鳩協會制定西條八十作詞、細川潤一作曲「勇ましき軍
鳩」ニ對シ陸軍省撰定歌名義使用方許可セラレタルニ付依命通牒

ス

陸普第五五一六號

昭和拾六年七月廿壹日





昭和十六年六月十二日

陸軍省 第一三三五九



大日本軍用鳩協會々長

公爵 鷹 司 信 輔



陸軍大臣 東 條 英 機 閣 下

陸軍省撰定歌名儀申請の件

記

一 大日本軍用鳩協會制定

「勇ましき軍鳩」西條八十作詞、細川潤一作曲

趣 意

今次事變に於ける軍用傳書鳩の活躍は軍馬、軍用犬とともに目覺しく、幾多の輝く殊勳と美談とを戦史に綴り居る次第に候が、今般本協會に於ては西條八十、細川潤一兩氏に作詞並に作曲を委囑し本協會制定の歌「勇ましき軍鳩」を作成、これが歌曲を陸軍省撰定歌として普く唱和し、以て軍用鳩の勳功を讃へると共に銃後國民にこれが知識の普及を圖る可く、特別の御詮議を以て右撰定歌の名儀認可相成度く御願申上げ候、未曾有の重大時

本件等事於て御詮議の上御
可方可然は取計
七月十日
支那一課
勅旨一印
以中

局下、軍用鳩育成の緊要性に鑑み、これが認識を廣く一般に徹底せしむるは意氣深きこと、信ずる次第に御座候

一、軍用鳩育成の緊要性に鑑み、これが認識を廣く一般に徹底せしむるは意氣深きこと、信ずる次第に御座候

一、軍用鳩育成の緊要性に鑑み、これが認識を廣く一般に徹底せしむるは意氣深きこと、信ずる次第に御座候

一、軍用鳩育成の緊要性に鑑み、これが認識を廣く一般に徹底せしむるは意氣深きこと、信ずる次第に御座候

一、軍用鳩育成の緊要性に鑑み、これが認識を廣く一般に徹底せしむるは意氣深きこと、信ずる次第に御座候

三三三三三



「勇ましき軍鳩」

一、昨日は八里 けふ十里

兵と苦勞を共にして

背の小籠でククと鳴く

水が欲しいか 餌やろか

鳴く音も可愛い 傳書鳩

二、重圍におちた战友の

危急傳へて 彈丸の空

羽は血潮にまみれても

死んで離さぬ通信筒

おまへは神か 傳書鳩

三、列車を襲ふ敵軍に

頼む生命の電線も

切れて 嵐の闇の中

空に雄々しく舞ひあがる

おまへの姿 伏し拜む

四、敵城高く日の丸を

揚げて凱歌に籠あけりや

鳩よ、おまへもうれしいか

晴れの使命に勇みたつ

翼に朝の陽が躍る

五、小さい軀持ちながら

つくす忠義の真心は

なんで劣らう 將兵に

飾る戦史の幾頁

ほまれは薫る殊勳鳩

昭和十六年六月七日印刷 昭和十六年六月九日發行 (非賣品)

編輯者 社團法人大日本軍用鳩協會
發行者 東京市神田區錦町二ノ九 伊藤正文 印刷者 長田忠次郎
發行所 社團法人大日本軍用鳩協會 東京市京橋區入舟町三ノ七

勇まじき軍鳩

西條八十 作詞 細川潤一 作曲

大日本軍用鳩協會制定

第九三號

保存期限
三年
決裁指定
奉行指定

政務次官
參與官
回付
決裁前後連帶
課名

奉行(決裁)後
回覽課名



受領番號
壹第三七八二號
起元應(課)名
大日本射擊協會
第十六回全國中等學校射擊訓練大會東京地方大會
件名
後援名儀使用方三開スル件

大臣
委員
政務次官
參與官
書記官
審案
筆記者

主務局長
次官
高級副官
主務副官
官房御用掛
主務課員
主務課長

大臣官房
受領
提出
領受
號番
了結
昭和
年
七月
廿三日
昭和
年
七月
廿九日
昭和
年
七月
廿九日
昭和
年
七月
廿九日
主務局長
局長
主務課長
局長
課長
局長

報道
報告



委員



副官



主務副官



官房御用掛



主務課員

局長
主務課長

陸普副官ヨリ大日本射撃協會長宛回答案

七月十五日附ヲ以テ申請ニ係ル首題ノ件認可セラレタルニ
付承知相成度依命回答ス

陸普第五五一九號 昭和拾六年七月廿壹日

陸普副官ヨリ憲兵司令部本部長東京憲兵隊長(憲司經由)

宛通牒案

來ル八月二日三日、兩日陸軍戸山學校址ニ陸軍大久保射撃
場ニ於テ開催セラレ、大日本射撃協會主催第十六回全國中等
學校射撃訓練大會東京地方大會ニ對シ陸軍省後援名儀
使用方許可セラレタルニ付承知相成度依命通牒ス

陸普第五五一九號 昭和拾六年七月廿壹日

局長

局長



陸軍省 陸軍部 第三七八二號

昭和十六年七月十五日

東京市小石川区小石川一丁目二番一

大日本射撃協會會長 奈良 武次

陸軍大臣 東條 英機 殿

第六回全國中算學校射撃訓練大會東京地方大會

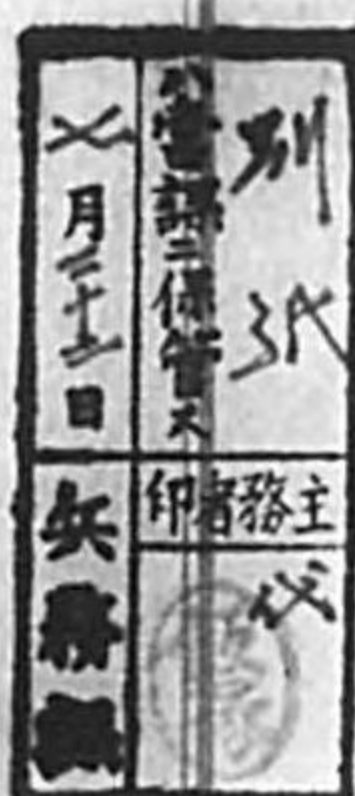
後接申請之件

昭和十六年八月二日三日、両日、ワタリ陸軍戸山學校

並ニ大久保射撃場ニ於テ本協會主催第十六回全

國中算學校射撃訓練大會東京地方大會開催

仕候ニ付、後接賜リ度別紙参考書類相送此



段及申請候也

記

一大會規定書並大會役員名簿



七月廿四日

三六六號

36

各通、內務、陸、海、遞信省、金、院

貨審第三二六號

陸軍省 壹第 三六六 四號

親展

御中

昭和十六年七月十四日

拜啓 御清榮之段奉賀候 陳者

一 海外各地起重機設備調査ノ件

頭記ニ關シ弊社ニ於テ昨年來調査中ノ處今般完成ヲ見候間御參考迄ニ
五部茲許同封御送附申上候御查收被成下候

三六六
管室保管
7月19日
閱覽室

別冊一
管課保管
7月18日
器材課

別冊一
7月18日

日本郵船株式會社
昭和十六年七月十五日
16.7.15
東京
官

電話九ノ内(23) 代表番號二五二二 二五三一 二五三四 宿直兼用

日本郵船株式會社

貨物部審査課

16.7.16
器材課

陸軍省
10.11.25
課

敬具

第三七三號

三年
局長
決裁指定
保存期限

大臣要		局長		主務局長		主務課長		主務課員		主務副官		高級副官		政務次官		參與官		書記官		審案		審記者			
防衛第三八〇號		昭和六年七月廿壹日		昭和六年七月廿壹日		昭和六年七月廿壹日		昭和六年七月廿壹日		昭和六年七月廿壹日		昭和六年七月廿壹日		昭和六年七月廿壹日		昭和六年七月廿壹日		昭和六年七月廿壹日		昭和六年七月廿壹日		昭和六年七月廿壹日		昭和六年七月廿壹日	
航空許可ニ関スル件		航空許可ニ関スル件		航空許可ニ関スル件		航空許可ニ関スル件		航空許可ニ関スル件		航空許可ニ関スル件		航空許可ニ関スル件		航空許可ニ関スル件		航空許可ニ関スル件		航空許可ニ関スル件		航空許可ニ関スル件		航空許可ニ関スル件		航空許可ニ関スル件	
老中三八二号		老中三八二号		老中三八二号		老中三八二号		老中三八二号		老中三八二号		老中三八二号		老中三八二号		老中三八二号		老中三八二号		老中三八二号		老中三八二号		老中三八二号	
大及毎日新夕社		大及毎日新夕社		大及毎日新夕社		大及毎日新夕社		大及毎日新夕社		大及毎日新夕社		大及毎日新夕社		大及毎日新夕社		大及毎日新夕社		大及毎日新夕社		大及毎日新夕社		大及毎日新夕社		大及毎日新夕社	

加手付

陸軍

陸普

副官ヨリ出願人へ通牒(類)所屬各分隊 經由一

七月 七

日附出願首題ノ件許可セラレタルニ付軍機保護法施行規則第十八條ニ依リ許可證ヲ交付ス

追テ外地ニ於ケル

航空ニ関

シテ八項地軍ノ指示

依ラレ度ヲ念

第三〇九號

許

可

證

昭和拾六年七月廿貳日

大阪市北区堂島上二丁目三十六番地

株式會社 大阪毎日新聞社

新聞掲載用写真原稿輸送ノ為ノ航空

別紙第一ノ通

一、行 爲

一、場所(區域)

一、本 證 有 效 期 間

一、條 件

自昭和十六年七月二十二日
至昭和十六年十二月三十一日

別紙第一

許可證ニハ 証書一通添付
セラレ度



別紙第一

陸軍

陸並白

副官ヨリ東部・中部・西部・朝鮮、台湾、閩東

各軍参考謀長、支那派遣軍総参考謀長、

旅順要塞司令官へ通牒

首題ノ件ニ関シ劄紙甲號、願出アリ乙號

ノ通牒許可セラルルニ付、承知相成度依命

通牒ス

通牒先

東部・中部・西部・朝鮮、台湾、閩東軍

支那派遣軍、旅順要塞

陸普第五五七一號

昭和拾六年七月廿貳日



別紙第一

陸軍

昭和十二年陸軍省令第四十三號軍機保護法施行規則第五條
及昭和十二年陸軍省令第四十四號關東州ニ於ケル軍機
保護ニ関スル件第二條、航空禁止區域ニ於ケル左
記航路ニ依ル航空

左記

北京—天津—青島—上海

天津

青島

大連

新義州—奉天—新京—哈爾濱—齊齊哈爾—滿洲里

京城—大連—天津

東京—大阪—福岡—那霸—台北—台中—台南—廣東—海口

上海—南京—安慶—九江—漢口

米子—新京

別紙第二

陸軍

- 一、本航空ニハ字上真機、双眼鏡等ノ使用ヲ禁ス
- 二、要塞地帯及陸軍輸送港域上空ノ航空ヲ禁ス
- 三、閩東州ニ於テハ都家甸子(小窰灣西北岸)一柳樹屯部落北端會一和尚屯(大窰灣西岸)一老龍頭一甘井子一沙河口會石家屯ヲ連ヌル線ノ東方及南方並ニ石家屯一岔溝會史家旺山一官城子聚一黃龍尾屯ヲ連ヌル線ノ南方及西方ノ地域ノ航空ヲ禁ス
- 四、閩東州及其ノ地先三海里以内ノ地域ニ於ケル航空高度ハ三〇〇米以下タルベシ
- 五、取締ノ為必要アリト認ムル場合ハ陸軍官憲ヲ搭乘セシメ若ハ本條件ヲ變更シ又ハ本航空ヲ中止セシムルコトアリ

麹町憲警第一三三四號

意見書

昭和十六年七月九日 麹町憲兵分隊長 平林茂

麹町憲兵分隊長印

陸軍大臣 東條英機 殿

大阪市北區堂島上三丁目三六
大阪毎日新聞社

社長 奥村信太郎

右者別紙、通り軍機保護法施行規則第五條二
基キ航空許可方願出タルニ付許可可然キ
モノト思料ス



麹町憲警第一三七四號

意見書

昭和十六年七月九日 麹町憲兵分隊長 平林茂

麹町憲兵分隊長 甲

陸軍大臣 東條英機 殿

大阪市北區堂島上三丁目三六

大阪毎日新聞社

社長

奥村

信太郎

右者別紙、通り軍機保護法施行規則第五條二
基キ航空許可方願出タルニ付許可可然キ
之卜思料ス



三十三

航



可願

昭和十六年七月七日

大阪市北區堂島上二丁目三十六番地



大阪毎日新聞社

社長 奥村信太



陸軍大臣 東條英機 殿

左記ノ通航空致度軍機保護法施行規則第五條ニ依リ許可相成度候也

左記

一、目的

新聞掲載用寫真原稿輸送ノ爲ノ航空

二、航空實施期間

自昭和十六年七月一日
至昭和十六年十二月卅一日

三、航空路

(1) 東京 〓 大阪 〓 福岡 〓 上海 〓 南京 〓 安慶 〓 九江

〓 漢口、北京 〓 天津 〓 青島 〓 上海、並ニ以上

ノ各復路航程

(2) (1) 東京 〓 大阪 〓 福岡 〓 京城 〓 大連 〓 天津

(1) 京城 〓 新義州 〓 奉天 〓 新京 〓 哈爾濱 〓 齊々

哈爾 〓 滿洲里

(2) 奉天 〓 大連 (2) 奉天 〓 天津 (2) 奉天 〓 北京 (2) 京

城 〓 青島

(1) 大阪 〓 米子 〓 新京、並ニ以上ノ各復路航程





(3) 東京 〓 大阪 〓 福岡 〓 那覇 〓 台北 〓 台中 〓 台南
 〓 廣東 〓 海口、並ニ以上ノ各復路航程

四 航空機ノ種類 飛行機 五機

機体ノ型式	發動機ノ型式及馬力	國籍及登録記號
1. ロックヒード式 アルテア型	ワスプ式 五二五馬力 壹箇	J-1 B A D O
2. パーシバル式 ガル型	ジプシー式 一八〇馬力 壹箇	J-1 B A S O
3. 三菱式 双發輸送機型	金星式 九〇〇馬力 貳箇	J-1 B A O I
4. ビーチクラフト式 〇一七E型	ライトウ イソドル 式 二八五馬力 壹箇	J-1 B A O H
5. 三菱式 雁二型	三菱式 八〇〇馬力 壹個	J-1 B A O K

五 乗員ノ氏名並ニ乗員ノ技倆證明及免狀ノ種類

一等飛行機操縦士 吉田 重雄
 二等飛行機操縦士 羽太 文夫

一等航空士
 二等航空士

志鶴 忠夫

野原 鶴藏

一等飛行機操縦士 大牧 準四郎

航空機機關士 八百川 長作

下川 一

古屋 光信

吉川 正一

窪田 庸男

一級無線通信士 福田 重夫

二級無線通信士 古泉 順平

同 乗者 佐々木 始次

加藤 幾太郎



六乗員ノ住所

大阪市北區堂島上二丁目三十六番地

大阪毎日新聞社

(各通)





空民第一〇九號

昭和十六年七月二日

航空局長官

大阪毎日、東京日日新聞社

取締役社長 奥村 信太郎 殿

日台支及日支通信連絡飛行ニ關スル件

昭和十六年四月二十六日附テ以テ申請ニ係ル右件左記條件ヲ
附シ許可セラレタルニ付及通牒候

記

一、航空路ハ大日本航空株式會社定期航空路ニ依ルコト

二、佐世保軍港、馬公要港及高雄市境域並ニ其ノ外方二十軒以
内ヲ飛行セサルコト

三、廣東及海口着陸ニ關シテハ豫メ支那方面艦隊ノ許可ヲ受ク
ルコト

四、洋上ニ於テ帝國海軍艦船ニ遭遇シタル場合ハ直チニ之ヨリ
離隔スル如ク行動シツ、支障ナキ限り高度ヲ五〇〇米以下
ニ下ケ飛行スルコト

五、飛行場發着ノ際ハ其ノ都度所在軍指揮官ノ指示ヲ受ケシメ
ラレ度

六、台灣本島及領海ニ於ケル高度ハ一、五〇〇米以下ニ飛行スル
コト

寫

日支飛行許可期限延長願

昭和十六年四月廿一日

大阪市北區堂島上二丁目三十六番地

大阪毎日、東京日日新聞社

取締役社長 奥村信太郎

逓信大臣 村田省藏 殿

昭和十五年十二月十七日附空監第一六七七號ヲ以テ御許可被下候日支
通信連絡飛行ニ關スル許可期限ハ本年六月末日滿了可仕候ニ付イテハ
引續キ向フ六ヶ月間左記ニヨル連絡飛行御許可被下度此段及御願候也

記

一、目的

新聞掲載用寫真原稿輸送ノ爲ノ航空

二、航空實施期間

自昭和十六年七月一日
至昭和十六年十二月卅一日

三、航空路

東京—大阪—福岡—上海—南京—安慶—九江—

漢口、北京—天津—青島—上海、並ニ以上ノ各

復路航程

四、航空機ノ種類

飛行機 五機

機体ノ型式	發動機ノ型式及馬力	國籍及登録記號
1. ロツクヒード式 アルテア型	ワスプ式 五二五馬力 壹箇	J-1 B A D O
2. パーシバル式 ガル型	ジプシー式 一八〇馬力 壹箇	J-1 B A B O
3. 三菱式 雁二型	三菱式 八〇〇馬力 壹箇	J-1 B A O K
4. 三菱式 双發輸送機型	金星式 九〇〇馬力 貳箇	J-1 B A O I
5. ビーチクラフト式 C-7E型	ライトホワイルウインド式 二八五馬力 壹箇	J-1 B A O H

五乘員ノ氏名並ニ乘員ノ技倆證明及免狀ノ種類

一等飛行機操縦士

吉田

重雄

一等飛行機操縦士
二等航空士

羽太

文夫

志鶴

忠夫

野原

鶴藏

一等飛行機操縦士

大牧

準四郎

航空機操縦士

八百川

長作

下川

一

古屋

光信

吉川

正一

徳田

庸男

一級無線通信士

福田

重夫

二級無線通信士

古泉

順平

同乗者

佐々木始次

加藤幾太郎

寫

日台支飛行許可期限延長願

昭和十六年四月廿一日

大阪市北區堂島上二丁目三十六番地

大阪毎日、東京日日新聞社

取締役社長 奥村信太郎

逓信大臣 村田省藏 殿

昭和十五年十二月十七日附空監第一六七七號ヲ以テ御許可被下候日台支通信連絡飛行ニ關スル許可期限ハ本年六月末日滿了可仕候ニ付イテハ引續キ向フ六ヶ月間左記ニヨル連絡飛行御許可被下度此段及御願候也

記

一、目的 新聞掲載用寫真原稿輸送ノ爲ノ航空

二、航空實施期間 自昭和十六年七月一日
至昭和十六年十二月卅一日

三、航空路 東京―大阪―福岡―那覇―台北―台中―台南―高雄

雄―廣東―海口、並ニ以上ノ各復路航程

四、航空機ノ種類 飛行機 五機

機体ノ型式	發動機ノ型式及馬力	國籍及登録記號
1. ロックヒード式 アルテア型	ワスプ式五二五馬力壹箇	J-BAPO
2. パーシバル式 ガル型	ジプシー式一八〇馬力壹箇	J-BASSO
3. 三菱式 雁 二型	三菱式八〇〇馬力 壹箇	J-BACK
4. 三菱式 双發輸送機型	金星式九〇〇馬力 貳箇	J-BADOT
5. ビーチクラフト式オーセ型	二ライトホワールウイド式 壹箇	J-BAOH

五乘員ノ氏名並ニ乘員ノ技倆證明及免狀ノ種類

一等飛行機操縦士
二等航空士

吉田 重雄

一等飛行機操縦士
二等航空士

羽太 文夫

志鶴 忠夫

野原 鶴藏

一等飛行機操縦士

大牧 準四郎

航空機操縦士

八百川 長作

下川 一

古屋 光信

吉川 正一

窪田 庸男

一級無線通信士

福田 重夫

二級無線通信士、古泉 順平

同乗者 佐々木 始次

加藤 幾太郎

古

千

八百

大

信

志

杉本 文夫

百

連

寫

空民第一一三號

昭和十六年七月一日附

航空局長官

大阪毎日・東京日日新聞社

取締役社長 奥村信太郎 殿

日滿通信連絡飛行ニ關スル件

昭和十六年四月廿六日附テ以テ申請ニ係ル右件左記條件ノ下ニ
許可セラレタルニ付及通牒候

記

一、航空路ハ左記ニ依ルヘシ

(1) 大日本航空株式會社定期航空路ニ依リ東京―大阪―福岡―
京城―大連―天津

東京日日新聞社

(四) 京城—新義州—奉天—法庫—八面坡—懷德—新京—哈爾濱—齊齊哈爾—滿洲里ヲ連ヌル線

但シ本溪湖—撫順各停車場ヲ中心トスル半徑十三軒以内ノ地域上空ノ飛行ヲ禁止ス

(五) 奉天—大連ヲ連ヌル線

但シ鞍山停車場ヲ中心トスル半徑六軒以内ノ地域上空ノ飛行ヲ禁止ス

(六) 奉天—天津ヲ連ヌル線

(七) 奉天—北京ヲ連ヌル線

(八) 京城—青島

(九) 米子—濟津—新京ヲ連ヌル線ニ依ルヘシ復航ハ往航ノ反對トス

- 二、特別軍事地域内（チチハル―滿洲里間）ノ飛行ニ關シテハ關東軍司令官ノ許可ヲ受ケ其ノ指示スル所ニ依ルヘシ
- 三、往復共奉天飛行場又ハ新京飛行場ニ於テ税關検査ヲ受クヘシ之カ爲奉天又ハ新京税關ニ豫メ發着時間ヲ通報スヘシ
- 四、本飛行實施ニ際シテハ其ノ都度豫メ關係航空所長宛發着時間ヲ届出ツヘシ
- 五、其ノ他ノ事項ニ關シテハ滿洲國一般法規ヲ遵守スヘシ
- 六、洋上ニ於テ帝國海軍艦船ニ遭遇シタル場合ハ直チニ之ヨリ離隔スル如ク行動シツ、支障ナキ限高度ヲ五〇〇米以下ニ下ケ飛行スルコト

寫

日滿飛行許可期限延長願

昭和十六年四月廿六日

大阪市北區堂島上二丁目三十六番地

大阪毎日、東京日日新聞社

取締役社長 奥村信太郎

逓信大臣 村田省藏 殿

昭和十五年七月一日附空運第一〇二六號ヲ以テ御許可被下候日滿通信
連絡飛行ニ關スル許可期限ハ本年六月末日滿了可仕候ニ付イテハ引續
キ向フ六ヶ月間左記ニヨル連絡飛行御許可被下度此段及御願候也

記

一、目的 新聞掲載用寫眞原稿輸送ノ爲ノ航空

二、航空實施期間 自昭和十六年七月一日 至昭和十六年十二月卅一日

三、航空路 ①東京—大阪—福岡—京城—大連—天津

②京城—新義州—奉天—新京—哈爾濱—齊々哈爾

—滿洲里

③奉天—大連 ④奉天—天津 ⑤奉天—北京

⑥京城—青島 ⑦大阪—米子—新京、並ニ以上ノ

各復路航程

四、航空機ノ種類 飛行機 五機

機體ノ型式	發動機ノ型式及馬力	國籍及登録記號
1. ロックヒード式 アルテア型	ワスプ式五二五馬力壹箇	5-BAD0

五 乗員ノ氏名並ニ乗員ノ技備證明及免狀ノ種類

2.	パーシバル式ガム型	ジプシー式一八〇馬力壹箇	J-1 B A S O
3.	三菱式 雁 二 型	三菱式八〇〇馬力 壹箇	J-1 B A O K
4.	三菱式双發輸送機型	金星式九〇〇馬力 貳箇	J-1 B A O I
5.	ビーチクラフト式〇一七E型	ライトホワイルウインド式二八五馬力 壹箇	J-1 B A O H

一等飛行機操縦士

吉 田 重 雄

二等飛行機操縦士

羽 太 文 夫

志 鶴 忠 夫

野 原 鶴 殿

一等飛行機操縦士

大 牧 準 四 郎

航空機操縦士

八 百 川 長 作

下 川 一

古	光	信
吉	川	正一
一級無線通信士	藤田	庸男
一級無線通信士	福田	重夫
二級無線通信士	古	泉
同	乘	者
佐	木	如次
加	藤	幾太郎

乘員寫真



一等飛行機操縦士
吉田重雄



二等飛行機操縦士
羽太文夫



航空機機關士
八百川長作



一等飛行機操縦士
大牧準四郎

乘員寫真



二
等
飛
行
機
操
縱
士
羽
太
文
夫

一
等
飛
行
機
操
縱
士
吉
田
重
雄



同
野
原 右
鶴
藏



二
等
飛
行
機
操
縦
士
志
鶴
忠
夫



航
空
機
關
士

八
百
川

長
作



一
等
飛
行
機
操
縱
士

大
牧
-
準
四
郎



同

同

古

下

屋 右

右

光

川

信

一



同

窪

田 右

庸

男

航
空
機
機
關
士

吉
川

正

一



一級無線通信士

福田

重

夫

二級無線通信士

古泉

順

平



同
加藤 右
幾
太
郎



同
乘
者
佐
木
始
次

乘員寫眞



二
等
飛
行
機
操
縱
士
羽
太
文
夫

一
等
飛
行
機
操
縱
士
吉
田
重
雄



同
野
原 右
鶴
藏



二
等
等
航
空
機
操
縦
士
士
志
鶴
忠
夫



航空機關士
八百川
長作



一等飛行機操縦士
大牧
準四郎



同

同

古

下

屋 右

右

光

川

信

一



同

航空機機關士

窪

吉

田 右

川

庸

正

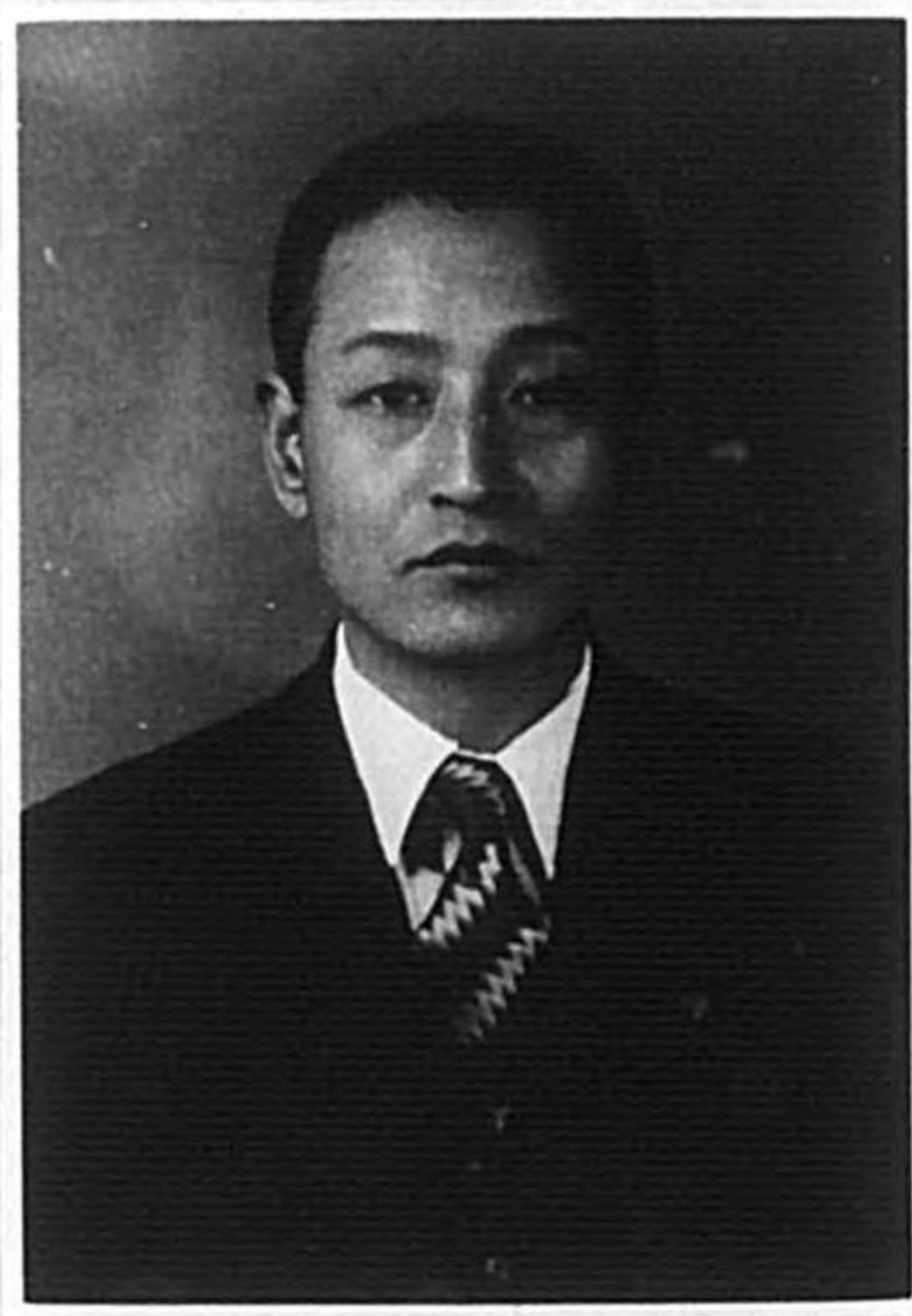
男

一



一級無線通信士

福田重夫



二級無線通信士

古井順平



同

加藤 右
幾太郎

同

乘者
佐々木
始次

三 八 三

保存期限
三年
決裁指定
局長
決行指定

拾五拾

房官臣大		課局務主		大臣委	件名	受領番號	政務次官 參與官 同付			
了結	領受	出提	領受					番號	受領番號	決裁前後
昭和	昭和	昭和	昭和					防衛甲第三七九號	壹第三五七八號	連帶 參與 本部
年	年	年	年		航空許可=関スル件		決行(決裁)後 同覽課名			
昭	昭	昭	昭							
和	和	和	和							
年	年	年	年							
七	七	七	七							
月	月	月	月							
十九	十九	十九	十九							
日	日	日	日							
(裁決)行決 覽 回 後		帶 連		局長	政務 次官	起元廳(課)名	滿洲航空務協會關東州本部			
局長		局長		局長	次官	參與官				
局長		局長		局長	高級 副官	書記官				
局長		局長		局長	主務 副官	審案 筆記者				
局長		局長		局長	主務 課員					
局長		局長		局長	官房 御用掛					
局長		局長		局長						

陸軍

陸普

副官ヨリ出願人へ通牒（旅順要塞司令部及經由）
大連皇軍司令部

六月十七

日附出願首題ノ件許可セラレタルニ付軍機保護法施行

規則第十八條ニ依リ許可證ヲ交付ス

陸普第五五一八號

昭和拾六年七月廿壹日

第三〇八號

許 證

大連市長者所

滿洲空務協會関東州本部

一、行 爲

航空知識普及及航空會員ニ對スル飛行機及滑空機操縦
教育ノ為メ航空

一、場所（區域）

別紙第一ノ通

一、本 證 有 効 間 限

自昭和十六年七月二十一日 至昭和十七年六月三十日

一、條 件

一、大連飛行場以外ノ箇所ハ滑空機ノ練習ノミニ使用
スルコト

二、大連市ニ在リテハ寺兒溝東端ト南沙河ロヲ連ヌル線
以南ノ地区及旅順市ニ在リテハ新百市街以外ノ地区

ノ航空ヲ禁ス
三、飛行機ノ航空高度ハ三〇〇米以下、滑空機ノ航空高度ハ一〇〇米
以下タルヤシ

四、航空ニ際シテハ字貞板、双眼鏡等ノ携行ヲ禁ス

別紙

五、必要ニ應ジ陸軍官憲ヲ搭乗セシメ若ハ本條件ヲ変更
シ又ハ本航空ヲ中止セシムルコトアリ

陸軍

許可證ニハ 願書一通添付セラレ
度

防衛課

イ、大連外中庄分校北側空地

只、台山屯五〇番地(大連星ヶ浦ゴルフ場)

ハ、旅順運動場

ニ、大連飛行場

滿空關第三三號

航空許可願

昭和十六年五月十七日

本籍地 岡山縣淺口郡西阿知町大字片島八五五番地
住所 大連市長者町一
職業 滿洲空務協會關東州本

會長 柳井義男

五十歲



陸軍大臣

東條英機 殿

左記ノ通航空致度軍機保護法施行規則第五條ノ規定ニ依リ許可相成度候也

三五七八號



滿洲空務協會關東州本部



左記

一 目的

航空知識普及並ニ當部會員ニ對スル飛行機及滑空機操縦教育ノ爲メ

二 出發地、出發日時

一 大連飛行場、大連第二中學校北側空地、臺山屯五一〇番地（大連星ヶ浦ゴルフ場）及旅順運動場
自許可ノ日向フ一ケ年間

三 通過地

一 大連飛行場、大連第二中學校北側空地、臺山屯五一〇番地（大連星ヶ浦ゴルフ場）及旅順運動場上空

一 周水子

普蘭店
魏子窩
哇城子^哇

四 到着地、到着予定日時

大連飛行場、大連第二中學校北側空地、臺山屯五一〇番地（大連星ヶ浦ゴルフ場）及旅順運動場、練習實施日

五 航空機ノ種類及型式

一 飛行機 ビユツカーユングマン式BU一三二型、D、H式八三型
二 滑空機 伊藤式〇二型、美津濃式三〇〇一型

六 發動機ノ型
式及馬力

伊藤式B二型、 佐藤式練習型

ゲツピングン式一型 日本式鳩型

美津濃式二〇二型 MG式一型

河合式ニク一型 日本式蜻蛉型

H M式五〇四型一〇〇馬力

ジプシイ型 一二〇馬力

J I E B H B J I A P B E

七 國籍、記號
登錄記號及
種別記號

A 10 A 12 A 14 B 13 B 11 11

B 17 B 16 B 17 B 18 B 14

B 15 B 16

八 乘員ノ住所氏名並ニ乘員ノ技倆證明書及免狀ノ種類

一等飛行機操縦士技倆證明書 大連市周水市土地建物會社三六號

一等飛行操縦士免狀 末永規市

二級滑空士

大連市千草町二

本部教官 竹島 透

大連市水仙町三〇番地

航空部長 高橋 富十郎

大連市桔梗町三一

本部職員 峰 内 勇

大連市老虎灘一〇五五

本部職員 大林 新一郎

大連市大山通り一

滿洲空務協會關東州本部

助教 高森 太郎

同 右

助教 谷口 光夫

同 右

助教 山崎 勝磨

二級滑空士

二級滑空士

二級滑空士

滿洲空務協會關東州本部

大連市大山通り一

滿洲空務協會關東州本部

本部技術員 坂本廣吉

同右

本部技術員 川口清一

同右

松尾謙吉

同右

荒木一雄

同右

多田稔

同右

安積芳郎

同右

佐藤弘一

同右

森川清次郎

同右

相川正

同右

山邊信一郎

同右

川上澄

同右

井本二郎

同右

植松光國

同右

大谷又雄

同右

島田治房

滿洲空務協會關東州本部

同右

北原五郎

同右

高井孝作

同右

中村實

同右

長谷耕

同右

向山輝

同右

三浦寅夫

同右

賴富憲二郎

同右

小郷亮

同
右

堀

毅

同
右

辻

茂

同
右

市

原

繁

男

同
右

林

田

省

三

同
右

奥

田

勝

彦

同
右

金

藥

瑞

同
右

藤

井

孟

志

滿洲空務協會關東州本部

同右

永井眞古刀

同右

野田久行

同右

高石輝芳

同右

金崎良

同右

高石良輝

同右

上森雅二

同右

多久島正

同右

梶原清行

同右

浦本賢

同右

伊賀重次

同右

高橋光雄

同右

花村良平

同右

尾崎正勝

同右

山本保

同右

中野耕治

滿洲空務協會關東州本部

同
右

三
隅
英
夫

同
右

岡
田
實

同
右

古
賀
茂

同
右

武
藤
昌
平

同
右

本
田
靖
生

同
右

丘
友
三
郎

同
右

小
林
文
雄

同
右

井
上
孝

同	同	同	同	同	同	同	同	同
右	右	右	右	右	右	右	右	右
宗 像 惣 作	藤 田 義 一	岡 村 良 治	矢 越 武 行	阿 部 恒 雄	蟻 川 潔	可 野 肇	木 野 照 之	

滿洲空務協會關東州本部

同
右

加納益男

同
右

松原善四郎

同
右

寺田二郎

同
右

和田宣哉

同
右

西崎民之助

同
右

家迫善信

同
右

安東裕

同
右

武田行美



九 其他参考トナルベキ事項

ノ昭和十五年十二月二十八日附陸軍省許可證第貳八五號繼續ノ爲

×

2 大連市内第二中學校北側空地 (臺山屯五一〇) (大連星ヶ浦ゴルフ場) 及旅順

運動場ニ於ケル滑空練習ハ乙種滑空機ニ限ルモノトス。

同 右

北村正俊

同 右

有江敬次郎



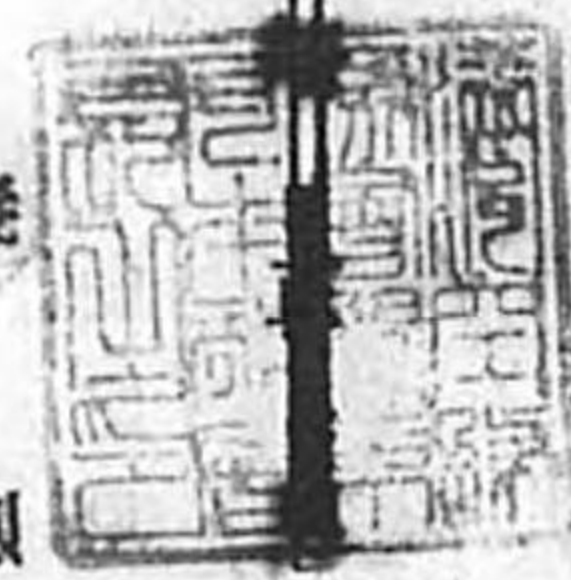
同 右

本部技術員

樂

義

烈





高橋 俊三郎

末永 規市



峰内 勇

竹島 透



谷口克夫

大林新一郎



山崎勝磨

高森太郎